

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部看護学科

名 前 滝沢 真智子

作成日 2023年9月29日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

- * 看護学科、成人看護領域に属し慢性期看護を担当している。慢性期看護として慢性期看護概論や慢性期看護援助論の科目と慢性期看護学実習を担当としている。さらに大学生入門、統合実習や看護総合演習も担当し、1年生から4年生に渡って学生と関わっている。また、実習委員会の委員として物品管理や実習オリエンテーションを担当している。広報委員会はオープンキャンパス、高大連携、バス見学等の対応をした。学修支援 W・国家試験対策について本年度は4年生の担任のため、業者の模擬試験等を入れて実施している。
- * 「慢性期看護学概論」必修 1年生、「慢性期看護援助論」必修 2年生、「リハビリテーション看護論」選択 2年生、「慢性期看護学実習」必修 3年生、「急性期看護学実習」必修 3年生、「基礎看護学実習Ⅰ」必修 1年生、「基礎看護学実習Ⅱ」必修 2年生、「統合実習」必修 4年生、「看護研究Ⅱ」必修 4年生、「看護研究Ⅲ」必修 4年生、「大学生入門」必修 1年生、「成人看護援助論Ⅲ」必修 3年生、「看護総合演習Ⅰ」必修 4年生、「看護総合演習Ⅱ」選択 4年生、「広報委員会」、「実習委員会」、「学修支援 W・国家試験対策」「学年担任」を担当した。
- * 「右手にライセンス。左手に生きる力」の理念の通り、学士による学問と看護師国家試験取得は合致している。看護師というライセンスを基盤に、社会に貢献できる人材であり、各個人はライセンスを基盤に生きる力を身につけていく。

2. 理念（教育に対する考え方）

- * 慢性期看護は、慢性的な健康障害を持つ人、もしくは終末期にある人の家族を含めた看護である。病気とともに生活する人を支える分野である。発達段階は成人期で、社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支えることといえる。成人期にある人間を理解し、代表的な慢性疾患の知識を学び、科学的根拠に基づいて実践できる知識・技術・態度を修得する。それは、教員が教えることではなく、学生が主体的に学び、実習に向けて実践できるようにすることである。看護学科の4つのディプロマポリシーを達成する必要がある。
- * 自身のこれまでの経緯は、看護師資格取得後は小児科病棟看護技師、看護教育、看護教員養成講座受講、大学でのリフレクション、老人ホームの相談員、幼児教育保育学科専任教員、精神科病棟の看護技師を経ている。社会人から大学での学び直しをした。そこで社会福祉士の資格を取得した。また、老人ホームで相談員を勤めながら、ケアマネの資格、認知症ケア専門士の資格を取得した。リカレント教育や資格取得は、看護観を深め、生きていく術を同時に学んだといえる。正直で、誠実で、素直で、責任感をもって生きていくことを深く学んだように思えた。またこれからは ICT 時代といわれているため、社会の情勢に応じて学習していく必要がある。ディプロマポリシーの「看護職として看護の質の向上へ向けグローバルな視点を持つと共に、社会の変化と進展に伴う多様な健康課題に対応するため、生涯にわたり自ら学び続ける素養と意志を持っていること」を目指していく。
- * 自身は本学に来る前は老年看護学を担当していた。入職当時は老年看護学領域を希望したが、成人看護領域の教員の欠員ということで成人看護領域を引き受けることになった。本学に来て初めて成人看護学を担当することになり、同じ看護学でも領域が違うため、1からのスタートであった。次年度には老年看護学に行けるかも、という希望を持ちながら現在に至っている。とはいえ、

学生に支えられながらこれまでこれた。与えられた課題を誠意と責任をもって務めさせて頂いた。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

- * 自身が教育方法として大切にしているものは、2, で述べた通り、「正直で、誠実で、素直で、責任感」としていた。先日、産学連携教育イノベーター育成プログラムの大学教育基礎力科目で「大学における倫理」のテーマで東北大学の山内先生の講義の中に、アカデミックインテグリティ（学術的誠実性）について話された。「正直」、「信頼」、「公正」、「敬意」、「責任」、「勇気」について話されていた。山内先生の資料は以前見ていた。VODでも山内先生の講義を聴取できたことは感激であった。学びを深めることができた。対面授業とzoom授業のハイブリットは今後も続くと思うが、直に学べることは大切なことだと考える。特に看護は臨床あつての看護である。いつも対象者の方を前にして展開される。どんな場面でも人と人の関係である。そのため、演習を充実させ、実習では失敗を恐れず、伸び伸びできるように指導する。
- * VOD『大学教育制度論』の「教員が何を教えるか」ではなく、「学生が何を学ぶか」「学生が何ができるようになるか」という視点で授業を展開していく。そして患者の看護を実践できる知識・技術・態度を学生と共に学んでいく。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

- * リハビリテーション看護論はオムニバスで5名の教員が関わった。学生からは「分かりやすかった」とのコメントがあった。一方、資料がない教員がいたとの意見があった。定期試験では5名の再試験者がいたが再試験では全員及第点であった。出席日数不足による名の受験資格喪失者がいた。
- * 慢性期看護援助論Ⅰの定期試験では6名の再試験者がいたが再試験では全員及第点であった。慢性疾患を抱える患者の看護について大まかに理解しているようであった。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

【短期目標】

- * 担当科目を履修している学生個々の学習状況を理解すること。（2年生終了時）
- * 事例を通して看護過程を展開し、患者の全体像を把握することができること（2年生終了時）
- * 実習に向けて、適切な内容の事前学習を行うことで、不安なく実習に臨むことができる。（3年次終了時）

【中期目標】

- * 授業では、実習を目指した内容を取り入れ、看護過程の展開と演習を通して、慢性疾患を抱えている人の、心理・身体・環境・社会的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること（2年生終了時）
- * 授業・実習を通して、科学的根拠に基づいて実践できる基本的知識と技術を修得し、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること（3年施終了時）
- * 国家試験は全員合格を目指す。（卒業時）

* 表紙を含め、全体として、3 ～10 ページ程度とします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、
すぐに確認できるようにしておきます。)